

No64 在籍変更は子どもの課題を解決できるか

義高 互

01子どもの特性

私は今まで教歴の中で高校の普通科や中学校の通常学級の担任をしました。

通級学級や福祉施設への訪問教育もしました。

支援学校勤務は10年中学校の特別支援学級も10年担任した経験があります。

中には国際映画祭などで国際的な評価や、共に制作活動をして文科大臣賞など成果をあげた年もありました。しかし本当に上手いかず、申し訳ない結果になった年もあったのです。ここでは反省と改善策が必要な例を挙げ、特支学級に在籍することが成果につながらなかった原因と在るべき対応策について提示させていただきます。

はじめに1998年の資料を提示します。

特殊学級担当研修会で採ったアンケートです。

いくつか取りましたが、そのうちの一つです。1990年代の特殊教育時代だからできたので、今なら取れないアンケート内容でしょう。

単純に解析すると、知的学級への在籍変更が効果があり、特に一人学級在籍が効果が高い。

しかし情緒学級では一人在籍では効果があるものの、複数在籍では逆に課題が深刻になるケースが出てくる。というものです。

当初私はこの結果を単純に考えていました。この結果の原因が、複数在籍だと支援の手が薄くなるだけだと思っていました。なぜ情緒学級の複数在籍では課題が深刻になってしまうのか。後いろんなデータを取っていくに従い、子どもの特性に関わる根本的な原因があることがわかりました。これは後で解説します。

在籍変更で課題を解決できるか

高校普通科担任 中学校通常学級担任
特別支援学校 特別支援学級 通級学級 訪問教育

国際映画祭入賞や文部科学大臣賞等成果もありましたが・・・

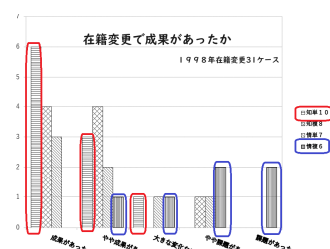
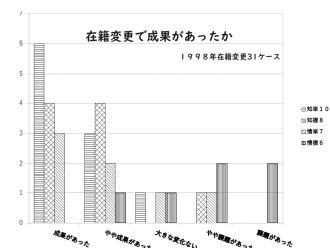


在籍変更で課題を解決できるか

高校普通科担任 中学校通常学級担任
特別支援学校 特別支援学級 通級学級 訪問教育

国際映画祭入賞や文部科学大臣賞等成果もありましたが・・・

申し訳ない課題が残ることもありました・・・



私が情緒学級で課題に直面した原因について提示します。

一つ目は

情緒支援の抱える子供の特性 です

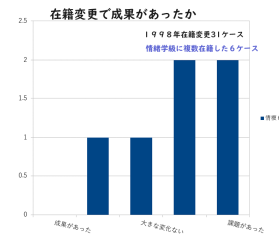
これについては課題となっている原因が明確になってきました。

可能な限り提示します。ただ解決策については検証不十分です。

二つ目は

特支学級経営の課題です。

これは私が課題だったもので、すでに解決している方もいるでしょう。



情緒学級における課題

○子どもの特性について

○情緒学級経営について